

ここは湯の町、宿場町
 豊前街道 裏地コース
 ~古民家巡り(下町編)~
 SHIMOMACHI COURSE



豊前街道とは
 熊本城を起点として北上し、山鹿を経て
 豊前街道に至る日参勤交代道のこと。

うなぎの寝床を
 覗いてみれば
 老舗の奥行き感じます

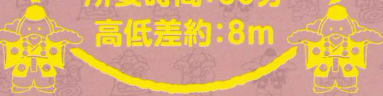
- 凡例
- 目印 ●
 - 見どころ ●
 - ビューポイント 📷
 - 駐車場 P
 - トイレ 🚻
 - レストラン 🍴
 - 裏に解説あり ①~⑦

およそ50m



山鹿フットパス
 約2.0km
 所要時間:60分
 高低差約:8m

菊池川の水運を利用し、米の集散地として大いに繁栄した山鹿の米を扱った
 商家が多く、回廊問屋や米問屋、酒蔵などが軒を連ねていたそうです。



山鹿 フットパス

豊前街道路地裏コース

～古民家巡り(下町編)～

約2.0km

所要時間:60分

高低差約:8m



フットパス(foot path)とは

フットパスとは【foot=歩く】【path=小径】のこと。積極的に歩くことを楽しんでいるイギリスが発祥です。昔から地域に残るありのままの風景の中を、ゆっくりと心と体で感じながら歩きます。歩くことで見えてくるご当地ならではの風景や、地元の人との触れあいが、フットパスの楽しみ方です。マップ片手にGO!

チヨマツのアドバイス

- ★駐車場はさくら湯の駐車場を利用してね!
- ★トイレはコース内に4ヶ所あるよ!
- ★雨天時は足元が悪くなるので注意してね!



【チヨマツ】
八千代座100周年記念
イメージキャラクター

発行:未来ネット山鹿

制作:山鹿もてなしたい 090-8947-4950(山本)

お殿様に愛された湯まち山鹿のシンボル

① さくら湯 スマート ゴール

江戸時代、肥後細川藩初代藩主、細川忠利公は山鹿の温泉を気に入り、参勤交代の折に休息・宿泊する「御茶屋」を新築しました。この御茶屋がさくら湯の始まりです。明治には市民温泉として生まれ変わり、明治31年、昭和4年の改修を経て、平成24年10月に、明治以来の往年の姿に再生されました。唐破風の玄関や十字にクロスした



営業時間/6:00~24:00
定休日/第3水曜日
(祝日の場合は、翌日)
お問合せ/0968-43-3326

独特の屋根の形、殿様のための御前湯として作られた「龍の湯」など、江戸期の建築様式を可能な限りに再現した「さくら湯」。他の温泉では味わえない圧倒的なスケールと趣を堪能できます。



山鹿の中心部にあった中世の城跡

④ 山鹿城跡

この城跡は、菊池家の祖・菊池則隆の次男・西郷太郎政隆から出た山鹿氏代々の居城だった所です。戦国時代に、佐々成政の検地強行に反発した豪族たちが「肥後国衆一揆」を起こした時、城主の山鹿彦次郎重安は隈部氏と共に秀吉軍と戦い敗れました。



伝統と文化を守る酒造り

⑥ 千代の園酒造

米の集散地として栄えた下町惣門で、千代の園は明治29年(1896年)創業。米問屋を営んでいた本田喜久八が米へのこだわりの強い酒造りを始めました。全国にさきがけ、純米酒造りに着手するなど、伝統の文化とともに今も酒造りが行われています。



山鹿温泉復活の祈り

② 薬師堂

文明5年(1473)3月、山鹿の宝である温泉が突然枯れてしまった事があります。

その時、金剛乗寺の住職、宥明法印(ゆうめいほういん)が薬師堂を建て、温泉復活の祈禱を不眠不休で行ったところ、再び以前にも勝るお湯がこんこんと湧き出てきたと言われていました。また、明治2年に西郷隆盛が再建したとも言われています。



山鹿の繁栄を語る

③ 古民家群

菊池川水運の恩恵を受け、豊かな温泉にも恵まれた山鹿の町並みには、今も往時の賑わいを物語る古民家群が軒を並べ、重厚な雰囲気醸成を醸し出しています。

由来が書かれた板書き



先人から受け継ぐ暮らし

⑤ 木屋本店

現在の店舗は、江戸天保年間(1830年頃)に建てられたもので、間口を狭くし奥へ長く続く通称「うなぎの寝床」と呼ばれる造りは当時の生活の様子を色濃く残した。麴を造る石室や室蓋(むろぶた)など伝統の製法と職人技が今でも残っています。無添加味噌、甘酒、塩こうじ等を店頭でも購入することが出来、麴室の見学・案内、甘酒の試飲もできます。



菊池川水運の恩恵

⑦ 豊前街道(惣門)

昔から湯のまちであった山鹿は、大名行列の宿場町として栄え、産業や文化の中心地でした。また、豊前街道の南口には江戸時代



の玄関口だった構え門が復元されています。今でも米を扱う店や、日本酒の醸造元、味噌製造所、米せんべい屋などの店が並び、重厚な貫禄が町並みに残っています。